

わかりやすい内容が書かれているんです。こういったものを町田市でもつくったほうがいいんじゃないか。こういったわかりやすいものを保護者も共有して、一緒にチェックできる環境をつくるべきではないかという私の主張のどこがおかしいのか、正直わかりません。私のこの考えに対して、それでも今のやり方しかとれない、これ以上できないということなのかどうか、お聞かせをお願いします」

このようになり強くと訴えたところ、最終的に担当の課からは「今後、浦安市のようなマニュアルの作成については検討していきたいと考えております」という前向きな回答を頂きました。

事前の打ち合わせでも前向きな回答が頂けなかったため、議場にて全力で必要性を訴え、ここまでの回答を頂くことができました。今後、マニュアル作成の進捗状況も確認してまいります。

28年3月に内閣府が公表した、 保育施設の施設・事業者向けガイドラインの 内容が守られているか チェックすることはしているのか。

担当の課からの答弁では「認可保育所、認定こども園などの保育施設は法令を遵守することが義務づけられています。運営に関する基準の規定において、保育施設は事故発生防止のための指針を整備しています。ガイドラインは、この事故発生防止の取り組みのための指針を作成する参考として国が作成したものです。各保育施設が作成した事故発生防止の取り組みのための指針に基づいて保育を実施することによって、適切に事故防止の対策が取り組まれていると考えています」との答弁。

つまり…。内閣府が公表した施設の事業者向けガイドラインに沿った内容で園が運営されているかどうかに関しては、市ではチェックしていないという事です。そして、答弁にある、各園で作成している「事故発生防止の取り組みのための指針」の内容も現在市ではチェックしていないため、内閣府の公表している施設の事業者向けガイドラインの内容がどれだけ各園の指針に反映されているかも把握していないと言います。本当はこの点に関しても議場でも

と深掘りしたかったのですが、時間が足りなかったため次回質問へ持越しとなりそうです…。

町市内の保育園のプールで事故が 起きないように、利用する園児の年齢別に 水深を決めるべきではないか。

2017年さいたま市緑区で4才の女の子がプールで溺れて亡くなりました。認可保育園でした。プールの深さは70センチから95センチだったとされており、水深が何センチだったかは全く不明との事。ちなみに、4才の女の子の平均身長は約99センチ。水深が相当深い事が良く分かります。事故当時は3才の子も一緒にプールにいたらしく、身長90センチちょっとの私の3才の娘が70センチから95センチのプールに入っていたら絶対に溺れると感じるほどの水深です。

プールに関してのガイドラインを内閣府で出していますが、水深に関してはノータッチ。その場にいた保育士の個人的な判断で水深が決まるなんて事はおかしいと感じております。

プールでの溺死事故は毎年のように起きていて、年齢によって最高水深の基準を作る事が必要と考えこの質問をしました。

この質問に対しての答弁は、「ガイドラインに基づきプール活動では、児童の年齢、体格、活動内容などによる配慮を行った上で、安全な監視体制のもと実施しております」とのことでした。本当はここから再質問をしたかったのですが、時間が無く断念。ちなみに、ガイドラインに基づいて運営しようとしてきた結果、認可保育園でも死亡事故が起こっているのです。今のガイドラインのままではまた事故が起こるのも時間の問題です。十分な人数で監視するのももちろんですが、なんらかの理由で十分な監視を怠ってしまう可能性が現場では考えられます。だから実際にこれまで事故が起こって来たのです。私は、「監視する」だけでなく、より具体的な事故防止策として、年齢別にはっきりとした水深を決める事が必要不可欠と考えます。プールの浴槽に最高水位の印などをつけておけば、プールに園児が増えて徐々に水位が高くなった時にも一目で気がつくことができます。町田市

の保育園で絶対に絶対にプールでの重大事故を起こさせない。そのために、今後もこの提案を続けてまいります。

ベビーシッターと保育園との 選択制を考えてはどうか。

「児童1人当たりが保育園でかかっている経費が0歳で月額32万8,000円。ここから保護者が例えば5万円、高い人で5万円から6万円ぐらいお金を払い、それ以外は税金で補われているということになります。なので実際には25万円以上、0歳には月額で税金がかけられているわけです。そこで、例えば保育園の方々よりも低い補助額でも、自己負担が多くなってあえてベビーシッターを希望する、こういった人がいるのではないかと考えております。理由として、ベビーシッターですと断然風邪や感染症になりにくいです。保育園は一度熱を出すと翌日も丸一日保育園を休まなければいけませんので1回熱で呼び出しがあると必ず2日は仕事を休まなければいけません。キャリアアップを考えている女性にとっては、自分で支払う保育料が上がってもベビーシッターを選択し、一日でも多く仕事に出られるようにしたい、そういった女性も多いのではないかと思います。

また、ベビーシッターですと土日も対応が可能、時間に融通がきき、更に送り迎えの時間も不要です。通園の準備、大きな荷物も不要です。

保育料金を幾ら支払ってもいいという方が実は町田市内に2.4%もいるということがわかっております。2017年度4月の待機児童は234名おりました。保育園の入所者数は7,328人なので、このうち3%がベビーシッターを選択すれば、待機児童がほぼゼロになります。

ベビーシッターは高いと月額40万円ほどかかってしまう。さすがに全額自腹は難しい。でも月額15万円から20万円補助してくれれば、ベビーシッターを進んで選択する家庭があるのではないかと。

保育園の児童一人当たりにかかっている税金からの補助よりも少ない補助であれば、税金からの持ち出しも安く済みます。

(裏面に続く)

じょう議員ですが、地下道改善に向けた情熱を感じる一般質問でした！

深沢ひろふみ議員 NHKから国民を守る党:保守の会

注目度NO1!?NHK党がついに町田市議会へ!
「達成率80%」の手応え!

勢力拡大中NHKから国民を守る党(以下NHK党と略)の地方議員がついに町田市にも誕生しました。町田市民、そして議員内での注目度もとても高いと感じます。深沢議員は、断っても何度も訪問してくる業者や団体の存在、「イエスと言うまで何度も来ますよ」という脅しのような言葉に、多くの町田市民が困っていると主張。これに対し担当の課から、町田市の消費生活相談でこうしたケースへの対応をしており、必要があれば警察への相談を勧めているとの回答があり、深沢議員は「市民は市に相談できるということを聞ければ、私の方ではもう80点くらいです」と答えました。

その後、町田市の「安全安心まちづくり推進計画」の



内容について、さらなる要望を伝えながらも、最後には「町田市にも、皆さん迷惑な訪問について相談できる」という事が分かったという事で十分でございます。本日はありがとうございました。」と締めくくりました。



田中みほ議員 共産党

圧倒的な傍聴人数!傍聴席VS市長!?

元教員で共産党期待の新人、田中議員の一般質問には圧倒的な数の傍聴人が集結!席の半分近くが埋まっているのではないかと感じるくらいでした。(通常、傍聴席は数人程度で、ゼロと言うことも普通です。)

そして、田中議員の質問が終わると傍聴席から拍手が沸くほどの盛り上がりぶり。議長からは「傍聴者に申し上げます。拍手等は控えていただくようお願いいたします」とアナウンスが…。

その後、田中議員の質問に対し、市長が「教育委員会および担当からお答えを申し上げます」と述べる

と、傍聴席から「えーっ!」と言うヤジが起こり、それに対し市長は「拍手くらいしたらどうだ」とジョークを飛ばしました。

この時の市長のジョークはマイクには入っていないため、録画や生配信では聞くことができません。傍聴席にも聞こえていたかどうかは分かりませんが、このように現場でしか知ることができない事もあるので、時には傍聴に足を運ぶのもおすすめです。

静かに傍聴していただくのが本来あるべき姿ですが、市民が熱い気持ちを持って議会に傍聴に来るのは素晴らしい事だと思います。議員がヤジを飛ばしている印象から、傍聴席でもヤジOKと思っている方もいるかもしれませんが、傍聴席では私語を慎んで頂くのが基本。お子様がいらっしゃる方、一緒に来た人とお喋りしながら議会を楽しみたい方は、お喋り傍聴席をご利用ください☆



●お喋り傍聴席紹介ブログQRコード